

# 就農事例

## 大西里志氏

調査日	令和3年12月
所在地	三豊市
経営主	大西 里志
主要事業	露地野菜
主要作目	キャベツ 4.5ha
就農タイプ	新規就農
就農時期	平成28年
売上	1,280万円
労働力	家族 2名(本人、父)

## ヒストリーあらすじ

・他産業に従事していたが、地域の同世代のキャベツ農家が増加してきたこと、実家に農地があったことから、農業に興味をもち、退職して、農業大学校で研修。研修中に農家実習がありキャベツ栽培の基礎を学ぶ。

・中古で軽トラックを確保。トラクター、管理機、動噴など主要な機械は実家のものを活用し初期投資を抑える。しかし、機械が古く能力が低いので作業が大変であった。

・就農時は実家農地に隣接する農地を香川県農地機構を通じて借入し団地化することができ効率的な生産基盤を確保することができた。

・地域の農家に学び、栽培技術の向上と周辺農地の借入により規模拡大。規模に見合った設備投資として、トラクター、畝立て機、移植機を整備。整備するにあたり、無利子の制度資金や補助事業の活用によりコスト削減を図った。

・令和3年 認定農業者になり、さらなる規模拡大を図るため、省力化のための設備投資や労働力の確保のため外国人実習生の活用を検討している。

エッセンス	
●既存設備を有効活用と規模に見合った設備投資	・現存する設備を使用貸借により初期投資を抑える。 ・規模拡大、生産量に応じた設備投資を制度資金や施策を活用して計画的に整備。
●農地を集約し効率化	・農地機構を活用して自宅周辺の農地を確保。ほとんどの農地が隣接しており作業の効率化を確保した。
●地域の交流	・JA部会など地域の組織への積極的な参加 ・地域の生産者との交流により、栽培技術の向上を図った。



大西里志氏



きゅうりの栽培状況



キャベツの育苗ハウス



キャベツの定植状況



キャベツの収穫状況

# 大西里志 氏 ヒストリー

就農前	就農期 (平成28年～29年)	確立期 (平成30年～令和2年)	発展・将来構想
<p>●他産業に従事、地域の同世代のキャベツ農家の増加</p> <p>・実家に農地があり、農業に興味があった。地域に同世代のキャベツ農家が増えてきたため、自分も挑戦したい。</p> <p>道具もなく実家の農地も少なかった。農業の経験もなく、不安であったが、まわりの同世代の農家に相談することができた。</p>	<p>●平成28年に就農</p> <p>・香川県農地機構を利用して、隣接する農地をまとめて確保</p> <p>自作地に隣接する農地を借入することができた。自宅に近いところで経営の基盤を確保することができた。</p>	<p>●生産技術の向上により安定的に出荷</p> <p>・経験を積んでロスを少なく安定的に出荷。 ・加工と生食の組み合わせで売上高も向上。</p> <p>栽培技術の向上によりロスを少なく安定的に出荷できるようになる。加工用と生食用の出荷を行い売上も上昇。労働力は不足した。</p>	<p>●規模の拡大</p> <p>・安定的に出荷できる技術は確立できた。今後、近隣の農地を借入して規模拡大を考えている。</p> <p>これまで、隣接する農地を中心に借入し効率的に生産している。今後も、続けたい。</p>
<p>●香川県立農業大学校で研修</p> <p>・退職後、香川県職業訓練センターの研修で野菜に関する栽培管理技術及び農業経営管理についての基礎知識の習得</p> <p>研修でキャベツ農家の実習があり、作業の流れなど基本的なことが分かるようになった。</p>	<p>●主要機械は使用貸借</p> <p>・水稻のみの経営から新たな品目としてキャベツを中心に栽培 ・トラクター等の主要機械は使用貸借で初期投資を抑える。</p> <p>トラクター、動噴、管理機は既存の機械を利用していましたが、古い機械のため作業効率が上がらなかった。所有する機械は中古のトラックのみ</p>	<p>●施策の活用で設備投資</p> <p>・育苗ハウス、トラクター、畝立て機、移植機を導入。省力化が進み効率的生産ができるようになる。</p> <p>無利子の制度資金、補助事業の活用により設備投資。規模に見合った設備投資で省力化が進みロスが減り、収益も向上した。</p>	<p>●労働力の確保</p> <p>・労働力が不足しているため、外国人技能実習制度の活用で確保したい。</p> <p>外国人技能実習制度を活用して労働力を確保したいが、新型コロナの影響で来日が延期し苦労している。</p>

## 大西里志 氏 <課題と対応策>

フェーズ	就農前	転換期	確立期	発展・将来展望	
主な出来事	香川県農業大学校農業科で研修	農域機構を活用して近隣農地をまとめて確保	設備投資(育苗ハウス、トラクター、移植機)	雇用の活用 規模拡大	
経営課題	人・組織	農業経営に必要な基本知識の習得	栽培技術の向上 労働力の不足	労働力不足 新型コロナウイルスの影響で実習生の確保が遅れる。	
	土地・設備	自作地(父名義)のみ	規模拡大 既存機械の活用	規模拡大 育苗ハウスや省力化機械の整備	
	カネ	初期投資を抑え、運転資金を確保する。	規模拡大のための資金を確保するため投資を抑える	設備投資に必要な資金の確保	-
	技術・ノウハウ	研修で基本知識の習得	近隣農家や部会に加入して技術習得	省力化のための技術の習得	安定生産が継続できるようさらなる技術の習得
	販売・販路	JA出荷	JA出荷	加工・生食を組み合わせた販売	加工を中心に安定的に収入が確保できる販売先の開拓
	情報	栽培技術の習得	情報網の拡大	情報網の拡大	情報網の拡大
	地域	同世代のキャベツ農家が増加	まとまった農地	地域の担い手として	地域の担い手として
	具体的内容	農業大学校の研修からスタート	隣接した農地の確保して規模拡大	トラクター、移植機の整備で省力化、育苗ハウスの整備し安定生産を目指す。	外国人技能実習生制度の活用による労働力の確保
対応策	農業大学校での研修 三豊市農業委員会で農地の相談。 JA部会等地域の団体に加入して情報収集	農地機構を活用して近隣農地を集約、効率化を確保する。 設備投資を抑え運転資金を確保。	ハローワークに求人募集 収入の平準化を目指すため露地きゅうりの導入 制度資金や補助事業を活用してコストを削減。	引き続き外国人実習生を活用など労働力を確保につとめる	
外部環境				新型コロナウイルスの感染拡大	